

5. 基本に戻って、魅力あるロータリーに

最今のロータリーには、多くの変化が起きています。そのためロータリーの基本が失われ、魅力が少なくなってきたように感じます。

【今ロータリーがどのように変化しているのでしょうか】

まず、あれほど長い間守ってきた、そしてロータリーの特徴でもあった「1業種1会員制」が崩れてきました。また、Eクラブ、すなわちインターネットクラブなるものが考え出されました。例会で顔を合わせないで、心からの友情を深められるのでしょうか。

さらに、昨年度から大変なことが決まりました。仕事をしたことがない人、また仕事を中断している人を正会員として認めることになりました。職業人の集まりでありましたロータリーに、専業主婦も入会を認めるようになったわけです。それに、衛星クラブなるものが考えられ、法人会員や準会員などの、会員増強も計画されています。

また、ロータリーでのサービス（奉仕）は、職業サービスを根幹とするということで今まで大切にされてきました。しかし、昨今職業サービスが軽視されているのにも気がなります。

次に低開発国の慈善奉仕活動に、重きが置かれて来ているように感じます。そのため資金を多く集めたいためでしょうか、会員増強に一所懸命になっているように思います。とはいえ、誰でも彼でも入会させていくわけにはいきません。ロータリーの誇りと魅力が失われていきそうです。

ロータリーの根本は、「Fellowship（親睦・友情）」と「Service（サービス・奉仕）」です。世界のロータリーでは、この二つの根本の基本が軽視され、社会奉仕、とくに世界人道的支援活動に重点が置かれてきているように思います。ロータリーは、単なる慈善奉仕団体ではありません。

日本のロータリーは、人生道場的であり精神的親睦を大事にし、国際ロー

タリーは職業サービスを軽視し、社会奉仕活動推進に重点が置かれてきています。ですから、活動せよ。Take actionです。日本のロータリーと国際ロータリーとの違和感が非常に大きくなっています。しかし、日本のロータリーは両面において比較的バランスよく活動しているように感じます。

【ロータリーの魅力とはどんなものですか】

魅力とは、人の心を引きつける力にあります。「魅力あるロータリー」とは、人を引きつけ、興味を持たせ、喜びを与え、刺激を与えるロータリーということになります。ロータリーの魅力とは、「ロータリーに入りたい。入れてもらいたい」と感じるものでありましょう。既にロータリーに入っておられる人たちには、何時までも在籍したいと思わせ、辞めたくないと思うことでしょう。

ロータリーの第1の魅力は、「Fellowship（親睦・友情）」にあると思います。親睦には一般的親睦と精神的親睦とがあります。ゴルフや飲み会などの親睦は一般的親睦で、これはこれで意義あるものと考えますが、こればかりに耽ってはいけません。

ロータリーで大事なのは精神的親睦です。精神的親睦とは、ロータリーの例会や活動の中で、地域の色々な職業のリーダーである人たちや立派な尊敬する異業種の方々とふれ合う中で、自分の教養を高め、人格を高めていき、立派な職業人となっていくことであります。自分の職業倫理性を高め、その職業によって人のために、社会のために役に立つことを学び地域の良き指導者として育てていくのです。ロータリーは人を作る団体であるといわれています。「入りて学び、出でて奉仕せよ」という言葉があります。

さて、ロータリーのもう1つの魅力は、職業サービスという、自分の職業で皆のために役に立つことです。Fellowship（親睦・友情）の中から、先ず職業サービスを学んでいくことになります。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という職業サービス理念に基づいた日常の職業生活のことを、ロータリーでは、本来の「サービス（奉仕）」と考えられているのです。それか

ら社会サービスがどんなものか学ぶことになるのです。さらにクラブサービスを、青少年サービスや世界サービスを学んでいくことになります。「みんなのために自ら進んで役に立とう」ということです。

【ロータリーの基本とはどのようなものですか】

ロータリーの根本は、「Fellowship（親睦・友情）」と「Service（サービス・奉仕）」です。

まず、第一にロータリーの根本の一つ「Fellowship（親睦・友情）」では、精神的親睦を大事にすることがロータリーの基本です。

ロータリーの最終の目的は、世界平和です。戦争のない世界を作ることです。それは世界の良識ある職業人が、一人でも多く親しい友人になり、ネットワークを作り、すなわち国際親善によって戦争をなくそうと願っているものです。その根本がロータリーの「Fellowship（親睦・友情）」であります。

もう一つの根本であるService（サービス・奉仕）の基本は、決議23-34号の精神を守ることにあります。

ポール・ハリスは、親睦、友達作り、助け合いを目的にロータリーを創設し、その後、利己的な目的だけではいけないと、サービス、すなわち「人を思いやり、人の役に立つように」しなければいけないとサービスの概念が入ってきます。その後、社会サービスか、職業サービスか、個人サービスか、団体サービスかの思想の対立が起こり、あの「決議23-34号」となるわけです。

この決議でロータリーの奉仕哲学が、規定され、利己と利他との調和をどのように取っていくかに奉仕の哲学がおかれしました。「Service Above Self」（超我の奉仕）（サービス第1、自己第2）という奉仕理念が定められ、「One Profits Most Who Serves Best」（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）が実施理念とされたのであります。これにより、ロータリーがやっと成人になったと言われています。

決議 23-34 号は、ロータリーの「奉仕理念」を確立した唯一のドキュメントであります。ここにロータリーの奉仕の基本がありますので、決議 23-34 号をよく理解することが大切です。

世界のロータリーでは、職業サービスが軽視され、社会奉仕に、とくに世界人道的支援活動に重点が置かれてきています。決議 23-34 号を「手続き要覧」から削除しようと、国際ロータリーで図られたことがありました。幸い日本の国際ロータリー理事さん方の懸命なる努力で削除を免れたそうです。

ロータリーには、変えていいものと変えてはいけないものがあると思います。ロータリーの管理運営については、その時々に必要ながあれば変えられてよいと思いますが、ロータリーの心である「奉仕の理念」は変えてはならないと思います。

以上より、ロータリーの基本は、Fellowship（親睦・友情）の心を大事にすること、及び決議 23-34 号の精神を守ることです。

【ロータリーの魅力を取り戻すためにはどうしたら良いのでしょうか】

それは、ロータリーの基本に返ることではないでしょうか。

第 1 に Fellowship（親睦・友情）の基本を大事にすることです。

そのためには例会を大事に、それによって自己啓発ができ、したがって家庭、職場、地域に役に立ち、そうなれば職業の倫理性向上につながり、社会に、世の中に役に立つこととなります。ですので、例会の回数、1 業種 1 会員制の堅持、質の良い会員の入会、資金集めのための会員増強の阻止、職業奉仕、職業分類の堅持などを検討することが大事となります。これらのほとんどがクラブの意向で、Fellowship の心を大事にする方向に運用できるものであります。

第 2 に、ロータリークラブの活動は、クラブが自主性を持つことであります。

決議 23-34 号にあるように、国際ロータリーとクラブの役目をはっきりさせて考えなければなりません。ロータリー運動の中心は、国際ロータリーではなく、クラブとロータリアンであることを良く認識して、クラブとロータリアンは、ロータリーの基本を守っていくことが大事であろうと思います。

第 3 に、「ロータリーの目的」を良く理解し、推進することです。

以上のことより『基本に返って、魅力あるロータリーに』にしていくことが、今こそ大事であります。そして一番大切なことは、「みんなのために自ら進んで役に立とう」ということでもあります。

以上

（「月信」 2016 年 7-2 月号）